



鉢苗 ラベンダーの育て方

鉢苗について

5月にファーム富田の苗畑から1株1株丁寧に掘り上げて鉢上げをした苗です。

お売りしているのはその年の春に鉢上げしたもので、まだ鉢の中で根が回りきっておりません。購入後畑や花壇に地植えされる方は、**1年間鉢苗として管理**していただき、**翌年の定植用**としてお使いください。

定植後の管理については**定植用苗ラベンダーの育て方**を参照してください。

鉢苗1. 鉢の置き場所

ラベンダーは日の光が好きなので、日向に置きましょう。ただし、アスファルトの上などで地温が25℃以上に上がる場所は避けましょう。風通しの良い比較的涼しい場所を選び、すのこなどの上に置いて鉢底と地面との間に空間を作ってください。

鉢苗2. 水管理

鉢の表面（1cmほど）がしっかりと乾いたら鉢底から流れるまでたっぷりと水を与えてください。このとき、鉢の中の土全部に水が行き渡ることが重要です。少ない水量で鉢内に乾いた部分が残ってしまうと、その部分の根が枯れてしまいます。目安として9号鉢であれば、一鉢につきバケツ一杯分くらいの水が必要となります。

よくある
失敗例

毎日水やりをしたのに枯れてしまいました

- ラベンダーは乾燥を好む植物なので、土が乾くの待たずに毎日水やりをすると枯れてしまいます。
※30℃以上となる日が続く時期などでは、毎日の水やりが必要となることもあります。
- ラベンダーにとっては適度に乾燥している時間が重要ですので、水やりの頻度は少なく、与えるときはたっぷりとメリハリをつけて行いましょう。

鉢苗3. 剪 定

地植えの場合と同じように、開花後は種をつける前に剪定を行います。剪定方法については定植用苗ラベンダーの育て方を参照してください。

鉢苗4. 肥 料

鉢植えの場合は、水やりの度に肥料分が流亡していくので、大粒の緩効性肥料（N-P-K 10-10-10など）を置き肥として使うと良いです。

鉢の大きさによって2～4粒ほど与えます（目安として4号鉢で2粒、8号鉢で4粒）。水やりの際に置き肥がころころと転がってしまうと根元に触れて肥料焼けの原因となるため、転がらない程度に軽く押し込むようにします。



鉢苗5. 冬越し

軒下や玄関先など気温が低く保たれるところ（5℃くらい）で管理します。積雪する地域の場合、雪の中に埋めて冬越しさせます。暖房の効いた室内などに入れてしまうと、ラベンダーが休眠せず春化が起こらないため、翌年の花がつかなくなってしまいます。

常緑樹であるラベンダーは休眠中もわずかながら呼吸と光合成を行っています。そのため、冬の間も土が乾いたらごく少量ですが水やりを行います。冬の間は土が乾くまでに時間がかかるので、土が乾く前に茎や葉が乾燥するようであれば、霧吹きで直接葉水をするのも有効です。

鉢苗6. 翌 春

雪どけすぐか、本州では2～3月頃、休眠が覚める直前のタイミングでもう一回り大きな鉢に植え替えます。ラベンダーは1年ごとに大きく生長するので、根が生長できるスペースを確保してあげること、新鮮な土を補充してあげることが重要です。

鉢苗7. 定植の仕方

定植する時期としては春の桜が咲く直前が適しています。春に植えるのが難しい場合は秋の紅葉の時期でも可能です。夏の開花期などは絶対に避けましょう。植え痛みで弱って枯れてしまうこともあります。



さいごに

ファーム富田では長年ラベンダーの栽培に取り組んできましたが、それでも順風満帆にやってこれたわけではありません。毎年枯れては植え替えを繰り返し、そのたびに栽培方法を見直し、たくさんのことを学びながら改善しています。

ここで紹介しているのはあくまでも栽培方法の要点の一部です。

ここに書かれていることの他にも、本やインターネットの情報も参考にしながら、ご自宅の地域に合わせて栽培方法を工夫してください。

北海道以外の暖かく湿潤な地域では地中海の乾燥した気候が好きなラベンダーを育てることは難しいかもしれません。しかし大切なのは、もし枯れてしまったとしてもあきらめないこと、失敗から学び、自分なりの栽培方法を改善していくことです。

手間をかけ謙虚に学び育ててラベンダーが過ごしやすい環境を作ってあげることができれば、きっとご自宅の畑や花壇でも、毎年きれいな紫色の花と安らぐ香りを運んでくれることでしょう。